

免責

- 本製品の使用中に発生したデータやプログラムの消失についての保証はいたしかねます。
- 本製品のカバーを開けたり、分解したりしないでください。故障の原因となります。
- 本製品を水分や湿気の多い場所、直射日光のあたる場所、ホコリや湯煙などの多い場所、車中や暖房器具のそばなどの高温となる場所に設置したり保管したりしないでください。

切取線

保証書

型番	SW-KVM8UP		
シリアルナンバー			
お客様	お名前		
	ご住所	〒	
販売店	TEL		
	販売店名・住所・TEL		
	担当者名		
保証期間	12ヶ月	お買い上げ年月日	年 月 日

SANWA
SUPPLY

PS/2・USB両対応 パソコン自動切替器 (8:1) 取扱説明書

SW-KVM8UP



最新の情報はWEBサイトで!! <http://www.sanwa.co.jp/>

- サポート情報
 - よくある質問(Q&A)
 - ドライバのダウンロード
 - 各種対応表
- など、最新情報を随時更新しています。

▼トップページから

▼サポートコーナーへ



ご質問、ご不明な点などがございましたら、
ぜひ一度、弊社WEBサイトをご覧ください。

サンワサプライ株式会社

2010.8現在

岡山サブライセンター/〒700-0825 岡山県岡山市北区田町1-10-1 TEL.086-223-3311 FAX.086-223-5123
 東京サブライセンター/〒140-8566 東京都品川区南大井6-5-8 TEL.03-5763-0011 FAX.03-5763-0033
 札幌営業所/〒060-0807 札幌市北区北7条西5丁目ストークマンション札幌 TEL.011-611-3450 FAX.011-716-8990
 仙台営業所/〒983-0851 仙台市宮城野区榴岡1-6-37宝栄仙台ビル TEL.022-257-4638 FAX.022-257-4633
 名古屋営業所/〒453-0015 名古屋市中村区椿町16-7カジヤマビル TEL.052-453-2031 FAX.052-453-2033
 大阪営業所/〒532-0003 大阪市淀川区宮原4-1-45新大阪八千代ビル TEL.06-6395-5310 FAX.06-6395-5315
 福岡営業所/〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街8-20第2博多相互ビル TEL.092-471-6721 FAX.092-471-8078

10/08/JMDaAt

最初にご確認ください。

セット内容

- 切替器本体 1台
- ACアダプタ 1個
- コンソール接続用ケーブル (0.27m) 1本
- ラックマウントキット (ブラケット×2、ネジ×6) 1セット
- グラウンド線 (接地線) 1本
- ゴム足 4個
- ラック固定用ネジ・ナット・ワッシャー 各4個
- 取扱説明書・保証書 (本書) 1部

※万一、足りないものがございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。
また、お手元に置き、いつでも確認できる様にしておいてください。

本取扱説明書の内容は、予告なしに変更になる場合があります。
最新の情報は、弊社WEB (<http://www.sanwa.co.jp/>) をご覧ください。

デザイン及び仕様については改良のため予告なしに変更することがございます。
本書に記載の社名及び製品名は各社の商標又は登録商標です。

サンワサプライ株式会社

目次

■安全にお使いいただくためのご注意	3
・注意	3
・お手入れについて	3
■取扱い上のご注意	3
■本書について	3
■本書の表記について	3
■本製品の特長	4
■必要なハードウェア環境	4
・コンソール	4
・パソコン	4
・KVMケーブル	4
■各部の名称・説明	5
・フロントパネル	5
・バックパネル	5
■ハードウェアのセットアップ	6
・卓上設置	6
・ラックマウント	6
・デバイスの接地（アース）	7
・単体構成	7
・ケーブル接続図	8
・2段階構成（カスケード接続）のセットアップ	8
・ホットプラグ	10
・KVMポートのホットプラグ	10
・コンソールポートのホットプラグ	10
・ポートID番号	10
・電源オフ、再起動	10
■手動によるポート選択	10
■ホットキー操作によるポート選択	11
・ホットキーモードの起動	11
・アクティブポートの選択	12
・オートスキャンモード	12
・スキップモード	13
・コンピューターのキーボード/マウスのリセット	13
・ホットキーによるビープ音の切替え	13
・ホットキーモードの起動キー切替え	14
・OSDホットキーの切替え	14
・ポートOSの変更	14
・デフォルト値のリストア	14
・ホットキー一覧表	15
■OSD操作	16
・OSDへのログイン	16
・OSDホットキー	16
・OSDメイン画面	17
・OSDメイン画面の項目	17
・OSDナビゲーション	17
・OSD機能	17
・F1：GOTO	18
・F2：LIST	18
・F3：SET	19
・F4：ADM	21
・F5：SKP	23
・F6：BRC	23
・F7：SCAN	24
・F8：LOUT	24
■Macキーボードエミュレーション	25
■付録	26
・工場出荷時におけるデフォルト値のリストア	26
・OSDの工場出荷時における初期設定一覧	26
・SPHDコネクタについて	26
■仕様	27
■保証規定	27

安全にお使いいただくためのご注意(必ずお守りください)

- 注意：下記の事項を守らないと事故や他の機器に損害を与えたりすることがあります。
- 取付け・取外しの時は慎重に作業を行ってください。(機器の故障の原因となります)
 - 次のような場所では使用しないでください。
 - ①直射日光の当たる場所
 - ②湿気や水分のある場所
 - ③傾斜のある不安定な場所
 - ④静電気の発生する場所
 - ⑤通常の生活環境とは大きく異なる場所
 - 長時間の使用後は高温になっております。取扱いにはご注意ください。(火傷の恐れがあります)

■お手入れについて

- ①清掃するときは電源を必ずお切りください。
- ②機器は柔らかい布で拭いてください。
- ③シンナー・ベンジン・ワックス等は使わないでください。

取扱い上のご注意

本製品を使用してパソコンを切替えて使用する際は、万が一に備えてデータのバックアップをこまめにすることを勧めます。(切替え時の不具合によるハングアップ、ケーブル抜け等)

本書について

この取扱説明書ではSW-KVM8UPの取付けや配置方法、操作方法について説明しています。本書の構成については下記をご覧ください。

- はじめに …… 本製品の特長や機能の紹介、またフロント・バックパネルについて説明します。
- 導入 …… 本製品の接続や設定方法などについて説明します。
- ホットキー操作 …… 本製品のホットキー操作について説明します。
- OSD操作 …… 本製品のOSD(オンスクリーンディスプレイ)詳細および操作方法について説明します。
- 付録 …… 本製品についての技術情報およびその他の重要事項についてまとめてあります。

本書の表記について

[]	入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Num Lock]+[←]のように「+」を表記してあります。同時ではなく順番に押す場合は、[K]→[Enter]のように「→」を表記してあります。
①	番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。
●	●印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。
⚠	重要な情報を示しています。

本製品の特長

- 1組のコンソール(キーボード・マウス・ディスプレイ)で8台までのパソコンを切替えて操作できます。
- パソコンとの接続はPS/2でもUSBでも可能です。PS/2接続のパソコン、USB接続のパソコンを混在して接続することもできます。
- ※本製品にはパソコンとの接続ケーブルは付属されていません。接続コネクタに応じて別途接続ケーブルをご購入ください。
- キーボード・マウスはPS/2でもUSBでも接続できるデュアルインターフェースに対応しています。マウスはUSB、キーボードはPS/2などのクロスインターフェース接続も可能です。
- キーボード・マウスエミュレーション機能を搭載しています。KVMがどのポートを選択していてもパソコン起動時のブートエラーを回避します。
- 19インチサーバーラックに取付け可能です(1Uサイズ)。取付け用金具が付属しています。
- 切替方法は前面パネルでのボタン切替え、キー入力によるホットキー切替え、OSD画面による切替え操作が可能です。
- 使用するユーザーレベルで、操作出来るOSD画面を制限したり、コンソールから全てのパソコンを同時にシャットダウンさせるブロードキャスト機能、2レベルパスワードセキュリティ機能などシステム管理に便利な多機能OSDを搭載しています。
- 高性能ディスプレイの画質を最大限に使用できる超高解像度2048×1536ドットまでの解像度に対応しています。
- Windows OS、Mac OS、Linuxに対応しています。複数のOSが混在した環境でも使用できます。
- ※カーネルのバージョン・ディストリビューションの仕様により使用できない場合があります。
- 一定時間間隔で自動的にポートを切替えるオートスキャンモードを搭載しています。パソコン動作状況の確認などに最適です。
- ホットプラグに対応しているのでパソコンの追加・削除時に切替器の電源を切る必要がなくメンテナンスが簡単です。
- 2段階までのカスケード接続に対応しています。最大64台のパソコンを1組のコンソールでコントロールすることができます。
- キーボード・マウス・ディスプレイの信号を1つにまとめたオールインワンコネクタを採用しています。接続も簡単で見た目もすっきりできます。

必要なハードウェア環境

■コンソール

- 接続するパソコンの最大解像度に対応したVGA、SVGAまたはマルチシンク対応ディスプレイ
- USBまたはPS/2キーボード
- USBまたはPS/2マウス

■パソコン(以下の装置が各パソコンにインストールされている必要があります)



- VGA、SVGAまたはマルチシンクカード
- USBまたはPS/2(ミニDIN6ピン)マウスポート
- USBまたはPS/2(ミニDIN6ピン)キーボードポート

※本製品はシリアルマウスに対応しておりません。

シリアルPS/2変換コネクタを使ってシリアルマウスを接続しても正しく動作しません。

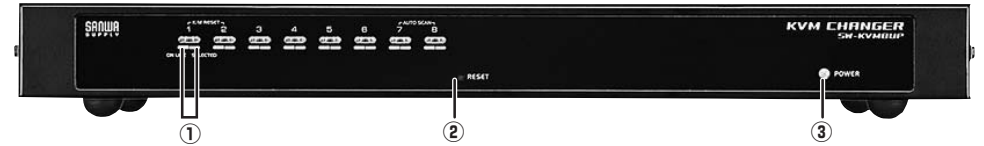
■KVMケーブル

規格外のケーブルを使用すると、接続機器を破損することや、機器の性能を低下させることがあります。理想的な状態でデータ転送を行うためにも、またシステムのレイアウトを単純化させるためにも、右記の本製品対応KVMケーブルをご使用になることを推奨いたします。

製品画像	機能	品番・長さ
	PS/2 KVMケーブル スイッチ側:SPDB-15 パソコン側:PS/2、VGA	SW-KLP120 (1.2m) SW-KLP180 (1.8m) SW-KLP300 (3m) SW-KLP600 (6m)
	USB KVMケーブル スイッチ側:SPDB-15 パソコン側:USB、VGA	SW-KLU180 (1.8m) SW-KLU300 (3.0m)

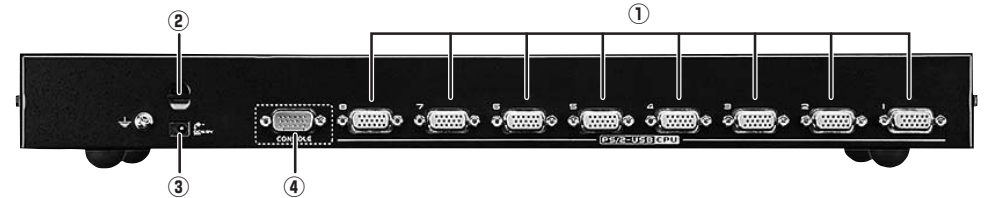
各部の名称・説明

SW-KVM8UP フロントパネル



- ①ポートLED
ポートLEDは対応するコンピュータポートの状態を示します。各ポートに2個のLEDがあり、左側がオンラインLED、右側が選択ポートLEDです。
●オンラインLEDがオレンジに点灯: 対応するポートに接続されたパソコンの電源がオンで稼働中
●選択ポートLEDがグリーンに点灯: 対応するポートに接続されたパソコンがKVMによって選択されている
●選択ポートLEDが点滅: ポートにオートスキャンモードでアクセス中
※初回起動時に自己診断を行います。この時、オンラインLEDと選択ポートLEDは交互に点滅します。
- ②リセットボタン
ピンホール型のスイッチで、システムリセットに使用します。クリップやペンの先端など、細いものを使用して押してください。
- ③電源LED
電源LEDが点灯しているときは、電源がオンで操作可能であることを示します。

SW-KVM8UP バックパネル

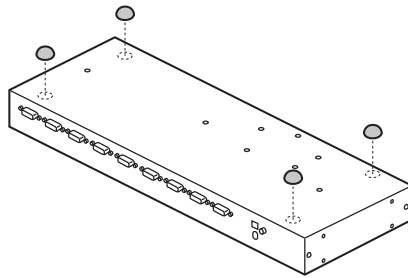


- ①KVMポート
パソコンとの接続に使用するKVMケーブルはこちらに接続してください。
※注意
このSPDBコネクタは、このスイッチに対応するように特別にデザインされたものです。(P.26「SPDBコネクタについて」参照)
このポートに通常のHDB-15コネクタを持つVGAケーブルを接続することはできません。(P.4「KVMケーブル」参照)
- ②ケーブルタイスロット
ケーブルタイを使用してケーブルを束ねて整理したい場合は、このスロットでユニット本体に固定することができます。
- ③電源ジャック
電源アダプタはこちらに接続してください。
- ④コンソールポート
単体での使用による1段階接続、またはカスケード接続の1段階目のステーションの場合は、付属のコンソール接続ケーブルをこちらに接続し、キーボード・マウス・ディスプレイの各ケーブルを接続してください。

ハードウェアのセットアップ

■卓上設置

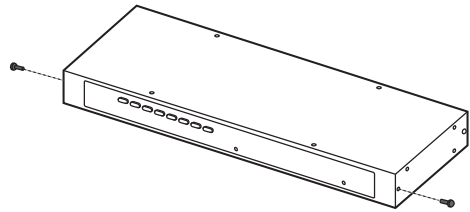
本製品は製品本体と接続されるケーブルの重量に耐えられ、安定した水平な場所であれば、どんな場所でも設置することが可能です。セットアップを開始する前に、製品の表面に汚れや傷がついておらず、排気口をささぎるものやスイッチの操作に支障をきたすものがないことを確認してください。本製品を水平な場所に置く際には、付属ゴム足の裏面のはくり紙をはがし、右の図のように製品底面の四隅に貼り付けてください。



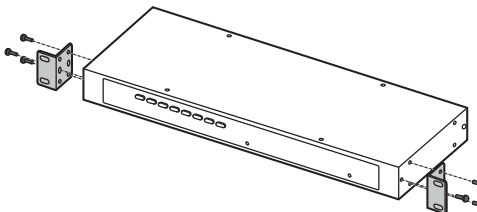
■ラックマウント

●フロント側へのマウント

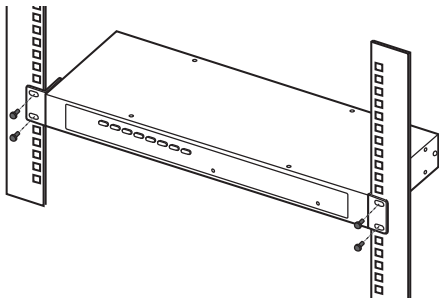
①下記の図のように、側面のフロント側についているネジ(左右各1箇所)をはずしてください。



②付属のラックマウントキットを下記の図のように本製品フロント側に取り付けてください。

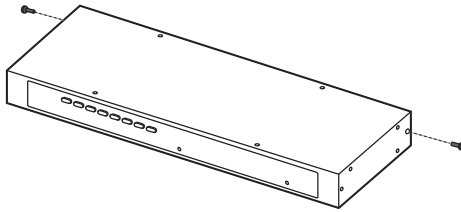


③金具を取り付けた本製品を、ラックのフロント側の任意の位置にネジ止めしてください。

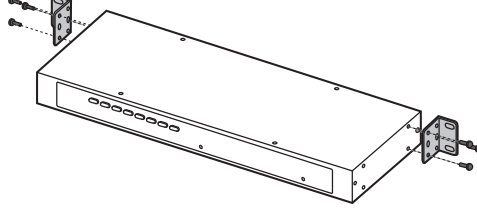


●リア側へのマウント

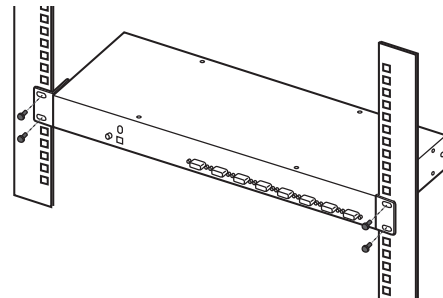
①下記の図のように、側面のリア側についているネジ(左右各1箇所)をはずしてください。



②付属のラックマウントキットを下記の図のように本製品リア側に取り付けてください。



③金具を取り付けた本製品を、ラックのリア側の任意の位置にネジ止めしてください。



ハードウェアのセットアップ (続き)

■デバイスの接地 (アース)

お使いの機器への損傷を防ぐためには、使用するすべてのデバイスを適切に接地する必要があります。付属のグラウンド線の一端を接地ターミナルに、もう一端を適切な接地端子にそれぞれ接続して本製品を接地してください。



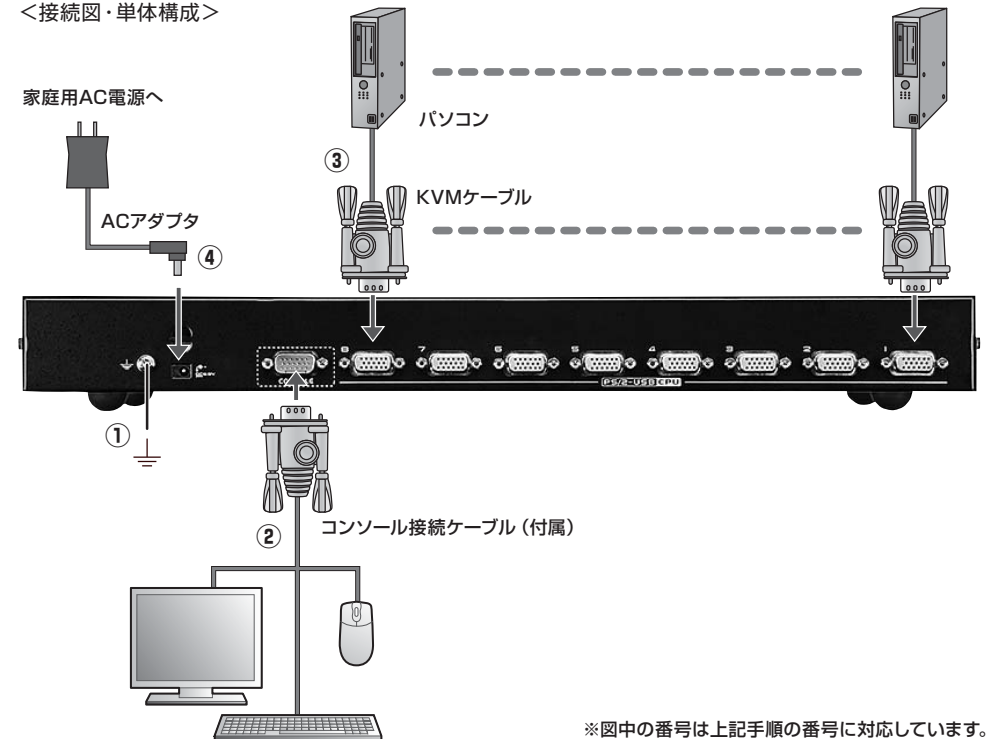
接地ターミナル

■単体構成

製品を1台で使用する場合は別の機器とカスケード接続する必要はありません。下記の接続図(図中の番号は手順の番号に対応)を参考にし、セットアップを以下の手順で行ってください。

- ①本製品を接地し、本製品に接続するすべてのパソコンに電源が入っていないことを確認してください。
- ②付属のコンソール接続ケーブルで、キーボード、マウス、ディスプレイを本製品のコンソールポートに接続してください。
※接続方法については「ケーブル接続図」(P.8)をご参照ください。
- ③KVMケーブル(P.4参照)を使って、本製品リアパネルのKVMポートと、パソコンのディスプレイ・キーボード・マウスの各ポートを接続してください。
※接続方法については「ケーブル接続図」(P.8)をご参照ください。
- ④本製品の電源ジャックにACアダプタのケーブルを接続し、ACアダプタを電源に接続してください。
- ⑤本製品に接続されているパソコンに電源を入れてください。

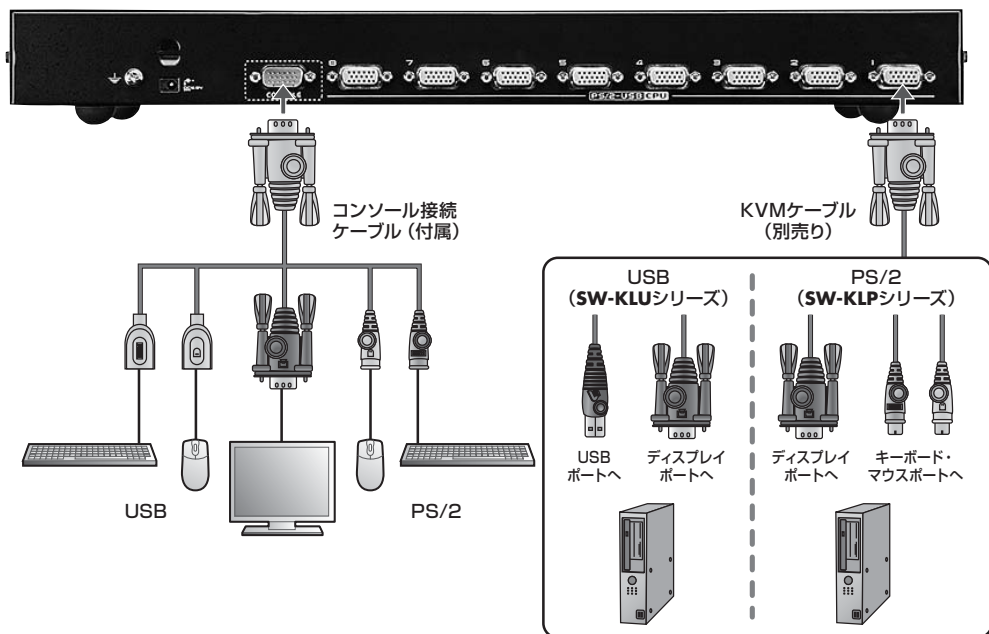
<接続図・単体構成>



※図中の番号は上記手順の番号に対応しています。

ハードウェアのセットアップ (続き)

■ケーブル接続図



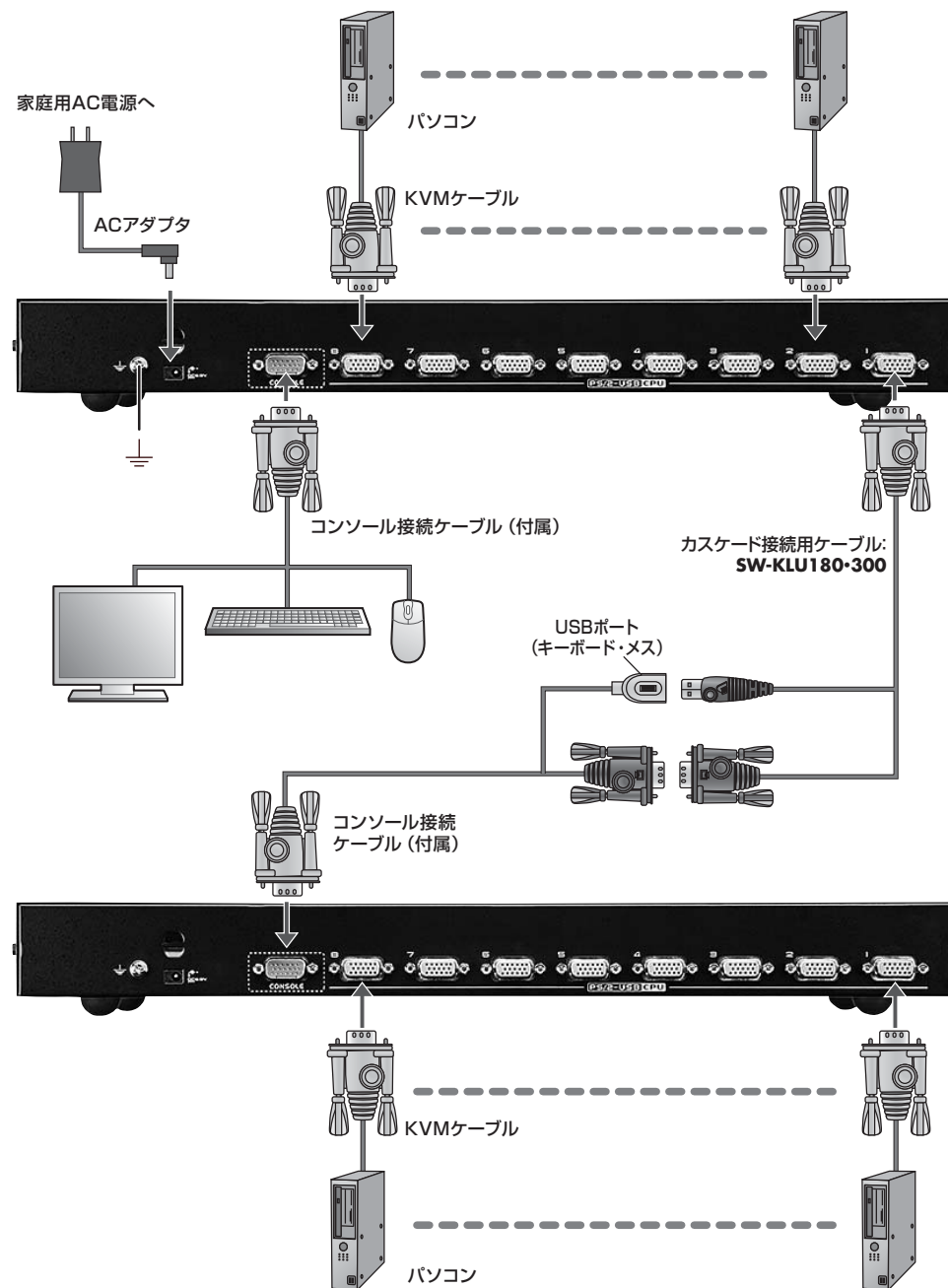
■2段階構成 (カスケード接続) のセットアップ

操作したいパソコンの台数が本製品のポート数を超える場合でも、カスケード接続をすることで、最大で64台のパソコンを1組のコンソールから操作することができます。製品のカスケード接続を行う場合は、以下の手順で作業を行ってください。

- ① 1段目に使用する本製品を接地し、本製品に接続するすべてのパソコンに電源が入っていないことを確認してください。
- ② 付属のコンソール接続ケーブルで、キーボード、マウス、ディスプレイを本製品のコンソールポートに接続してください。
※接続方法については上記「ケーブル接続図」をご参照ください。
- ③ カスケード接続に使用するケーブルを使って、1段目に使用する本製品のKVMポートと、2段目に使用する本製品のコンソールポートを接続してください。
※カスケード接続に使用するケーブルはUSBタイプの「SW-KLU180・300」をお使いください。
PS/2タイプのケーブルではカスケード接続できません。
- ④ KVMケーブル(P.4参照)を使って、本製品リアパネルのKVMポートと、パソコンのキーボード・ディスプレイ・マウスの各ポートを接続してください。
- ⑤ 他のポートもカスケード接続する場合は上記手順を繰り返してください。
- ⑥ 2段目の本製品から先に電源を入れてください。2段目のすべての電源が入ったことを確認してから、1段目の本製品の電源を入れてください。すべての本製品に電源が入ったら、最後に接続されているパソコンに電源を入れてください。

ハードウェアのセットアップ (続き)

<接続図・2段階構成 (カスケード接続)>



ハードウェアのセットアップ (続き)

■ホットプラグ

本製品はホットプラグに対応しているため、コンポーネントの追加や取外しの際にシャットダウンをする必要はありません。ホットプラグ機能が適切に動作するように、ケーブルの接続作業は以下の手順に従ってください。

■KVMポートのホットプラグ

KVMポートに接続したパソコンの位置変更を行った場合は、手動でOSDメニューのポート情報を変更する必要があります。詳細についてはOSDファンクションF3:SET下部メニューのSCAN/SKIP MODE(P.20)およびF4 ADM下部メニューの関係する項目をご参照ください。

※注意:接続するパソコンのプラットフォームがホットプラグに対応していない場合、KVMポートのホットプラグ機能は適切に動作しません。

■コンソールポートのホットプラグ

キーボード、マウス、ディスプレイポートはすべてホットプラグに対応しています。ただし、マウスについてのみ、以下の点に注意してください。

a) 同じ機種のマウスについては、自由にホットプラグを行うことができます。

b) 異なる機種のマウスを接続する場合は、構成のすべてのステーションおよび接続されているパソコンを再起動する必要があります。下記の電源オフおよび再起動の項目をご参照ください。

※注意:万が一ホットプラグ後にキーボード・マウスが反応しなくなった場合、リセットボタン(P.5参照)を押してキーボード・マウスのリセットを行ってください。

■ポートID番号

本製品のKVMポートにはそれぞれ固有のポートIDが割り振られます。OSD(P.16参照)やホットキー(P.11参照)でポートIDを指定することによって、目的のパソコンへダイレクトに切替えることができます。

●本製品を1台で使用、もしくはカスケード接続時の1段目で使用する場合、KVMポートのポートIDは、パソコンが接続しているKVMポートのポートナンバーを使用します。(ポート1~8がそれぞれ01~08)

●カスケード接続時、2段目の本製品のKVMポートIDは、4桁の番号で表されます。

前の2桁は1段目のKVMポートのポートナンバーを、後ろの2桁は2段目のKVMポートのポートナンバーをそれぞれ表します。例えば、「02-08」というポートIDは、2段目のKVMが1段目KVMの2番ポートに接続されており、パソコンがその2段目KVMの8番ポートに接続されていることを表しています。

■電源オフ、再起動

接続した本製品ユニットのうちの一つの電源を切り、再起動する必要がある場合は、まず本製品リアパネルの電源アダプタを抜いてください。その後以下の手順に従ってください。

①電源を切るユニットに接続している全てのパソコンをシャットダウンしてください。

※注意:キーボード起動機能がついているパソコンが接続されている場合は、そのパソコンの電源アダプタも抜かなければいけません。そうしないと電源が供給されている状態のままになっています。

②10秒待った後、ステーションに電源アダプタを接続しなおしてください。

③ステーションが起動した後、パソコンの電源を入れてください。

※注意:もし2台以上のステーションをシャットダウンした場合は、まず最上部のステーションの電源をオンにし、その後順に上部から下部へと電源をオンにしてください。

手動によるポート選択

製品フロントパネルにあるポート選択ボタンを使って手動でポートを切替えてください。

ホットキー操作によるポート選択

ホットキーを使うと、特定のポートにキーボードから直接切替えることができます。本製品には以下のような特長があります。

- アクティブポートの選択
- オートスキャンモードによる切替え操作
- スキップモードによる切替え操作
- パソコンのキーボードおよびマウスのリセット

また、ホットキーモードでは、以下の設定を行うことも可能です。

- ビーブ音の設定
- クイックホットキーの設定
- OSDホットキーの設定
- ポートOSの設定
- OSDデフォルト値のリストア

■ホットキーモードの起動

ホットキー操作を行うには、まず、ホットキーモードを起動する必要があります。ホットキーモードの起動には2通りあります。

● [Num Lock]キーと[-]キーでホットキーモードを起動する場合 (初期設定)

1. [Num Lock]キーを押したままにしてください。

2. [-]キーを押して離してください。

3. [Num Lock]キーを離してください。

以降、このキー操作は [Num Lock] + [-] と表記します。

● [Ctrl]キーと[F12]キーでホットキーモードを起動する場合 (クイックホットキーで設定変更後、利用可能)

1. [Ctrl]キーを押したままにしてください。

2. [F12]キーを押して離してください。

3. [Ctrl]キーを離してください。

以降、このキー操作は [Ctrl] + [F12] と表記します。

ホットキーモードが有効になっている場合、本製品には以下の動作が見られます。

※ディスプレイに、青い背景に白い文字で「HOTKEY:」と書かれたコマンドプロンプトが表示されます。ホットキーを入力すると、このプロンプトにその内容が表示されます。

※通常のキーボード、マウスの各入力にはサスペンドされ、ホットキーとして割り当てられているキー入力のみ可能です。

[Esc]キーを押すとホットキーモードを終了します。

ホットキー操作によるポート選択 (続き)

■ アクティブポートの選択

各ポートには固有のポートIDが割り当てられます。(P.10参照)ホットキーでこのポートIDを指定することで、本製品に接続されているパソコンに直接切替えることができます。ホットキーを使ってポートを切替える場合は、以下の手順で操作してください。

- 1.[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
- 2.ポートIDを入力してください。入力したポートIDは画面上に表示されます。
入力を誤った場合は[Backspace]キーを使って消してください。
- 3.[Enter]キーを押してください。[Enter]キーを押すと、先ほど指定したポートIDのパソコンが選択され、ホットキーモードが自動的に終了します。

※ホットキーモードで無効な値が入力されると、ポートは選択されません。ホットキーのコマンドラインは、有効な値が入力されるまで、また、ホットキーモードを終了するまで表示されたままになります。

■ オートスキャンモード

オートスキャンモードでは、「SCAN/SKIP MODE」でアクセスポートとして指定されたすべてのポートを自動で監視できるように、これらのポートを順番に一定の時間間隔で切替えます。詳細についてはP.20の「SCAN/SKIP MODE」をご参照ください。

● オートスキャンモードの起動

オートスキャンを起動する場合は、以下の手順で操作してください。

- 1.[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
- 2.[A]キーを押してから[Enter]キーを押してください。この操作によってホットキーモードは自動的に終了し、オートスキャンモードを開始します。
※オートスキャンモードの実行中に、[P]キーを押すかマウスの左クリックをすると、特定のパソコンでスキャンを一時停止することができます。オートスキャンの一時停止中には、コマンドラインに「Auto Scan : Paused」という文字が表示されます。
※オートスキャンを一旦終了すると、スキャンを再開した際に最初のポートからスキャンを始めるのに対し、一時停止機能を利用すると、再開した際には前回一時停止したポートからスキャンを続行しますので、オートスキャンを停止した後でスキャンを再開する必要がある場合は、オートスキャンモードを終了するよりも、スキャンの一時停止機能を利用したほうが便利です。
※オートスキャンを再開する場合は、任意のキーを押すか、マウスで左クリックをしてください。スキャンが停止していた位置から再開します。
※オートスキャンモードの実行中は、オートスキャンで有効なキー入力とマウス入力を除いた操作がサスペンドされます。通常のキー入力やマウス操作を行いたい場合は、オートスキャンを終了する必要があります。
- 3.オートスキャンモードを終了する場合は、[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。オートスキャンモードを終了するとオートスキャンは終了します。

ホットキー操作によるポート選択 (続き)

■ スキップモード

この機能を利用すると、パソコンを手動で切替えて監視することができます。この機能はオートスキャンモードとは異なり、スキャンインターバルがありませんので、選択したポートを時間の制限にしばられることなく、好きなだけポートを選択しておくことができます。スキップモードを起動する場合は、以下の手順で操作してください。

- 1.[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
- 2.ポート切替えの操作に割り当てられたカーソルキーを押してください。
※カーソルキーを押すと、ホットキーモードを自動的に終了し、その操作を行ったときに表示していたポートからスキップモードを開始します。各カーソルキーの機能は以下のとおりです。

←	現在のポートから、リスト内の1つ前のポートにスキップします。(アクセスポートに関する詳細はP.20「SCAN/SKIP MODE」を参照)
→	現在のポートから、リスト内の1つ後のポートにスキップします。

- ※スキップモードの実行中は、カーソルキーを押すだけでポートのスキップを行うことができますので、操作のたびに[Num Lock] + [-]等でホットキーモードを起動する必要はありません。
- ※スキップモードの実行中は、スキップモードの機能として割り当てられているキー入力を除いたキーボードおよびマウスの操作がサスペンドされます。コンソールを通常使用したい場合はスキップモードを終了する必要があります。
- 3.スキップモードを終了する場合は、[Esc]キーまたはスペースキーを押してください。

■ パソコンのキーボード/マウスのリセット

本製品に接続されたパソコンの操作中にキーボードまたはマウスが機能しなくなった場合は、キーボードとマウスのリセットを行うことができます。この機能を使うと、そのパソコンで実際にキーボードとマウスを抜き差しした時と同じ状態になります。キーボードとマウスのリセットを行う場合は、以下の手順で操作してください。

- 1.[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
- 2.[F5]キーを押してください。
※[F5]キーを押すと、自動的にホットキーモードを開始し、そのポートに接続されているパソコンでキーボードとマウスが再び使用可能になります。上記の手順でリセットを行っても問題が解決しない場合は、リセットボタン(P.5参照)を押してキーボード・マウスのリセットを行ってください。

■ ホットキーによるビーブ音の切替え

ビーブ音(P.22参照)はホットキーを使って有効または無効にすることが可能です。ビーブ音の設定を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

- 1.[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
- 2.[B]キーを押してください。
※[B]キーを押すと、ビーブ音が有効または無効に切替わり、画面上に1秒間、「Beeper On」または「Beeper Off」の文字が表示された後、ホットキーモードを自動的に終了します。

ホットキー操作によるポート選択 (続き)

■ホットキーモードの起動キー切替え

ホットキーモード(P.11参照)は、[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]いずれかを選択することができます。(初期設定は[Num Lock] + [-])

ホットキーモード起動キーを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

- 1.[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
- 2.[H]キーを押してください。

※[H]キーを押すと、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」というメッセージが1秒間表示され、ホットキーモードは自動的に終了します。

■OSDホットキーの切替え

OSDホットキー(P.16参照)は、[Scroll Lock]キー2度押し、または[Ctrl]キー2度押しに切替えることができます。OSDホットキーを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

- 1.[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
- 2.[T]キーを押してください。

※[T]キーを押すと、コマンドラインに「HOTKEY HAS BEEN CHANGED」というメッセージが1秒間表示され、ホットキーモードは自動的に終了します。

■ポートOSの変更

ポートに接続されているパソコンのOSと一致するように本製品側でポートOSを設定することができます。ポートOSを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

- 1.[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
- 2.下表から設定変更の対象となるポートに適したOSを選択し、該当するファンクションキーを押してください。

F1	ポートOSをWindowsに設定します。
F2	ポートOSをMacに設定します。

ファンクションキーを押すと、ホットキーモードは自動的に終了します。

■デフォルト値のリストア

これはアドミニストレーターに限定された機能で、工場出荷時におけるデフォルト値を本製品にリストアします。(P.22「RESTORE DEFAULT VALUES」参照)デフォルト値をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

- 1.[Num Lock] + [-]、または、[Ctrl] + [F12]のどちらかでホットキーモードを起動してください。
- 2.[R]キーを押してください。
- 3.[Enter]キーを押してください。

※[Enter]キーを押すと、コマンドラインに「RESET TO DEFAULT SETTING」というメッセージが3秒間表示され、ホットキーモードが自動的に終了します。

ホットキー操作によるポート選択 (続き)

■ホットキー一覧表

[Num Lock] + [-] または [Ctrl] + [F12]	[A] [Enter]	オートスキャンモードを実行します。 ※オートスキャンモードを実行中に[P]キーを押すかマウスで左クリックをすると、オートスキャンを一時停止します。 ※オートスキャンが一時停止している際に任意のキーを押すか、マウスでもう一度左クリックをすると、オートスキャンを再開します。
	[B]	ビープ音をONまたはOFFに切替えます。
	[Esc] または スペースキー	ホットキーモードを終了します。
	[F1]	ポートOSをWindowsに設定します。
	[F2]	ポートOSをMacに設定します。
	[F5]	現在選択しているポートのキーボードとマウスのリセットを行います。
	[H]	ホットキーモード起動キーを[Ctrl] + [F12]または[Num Lock] + [-]に変更します。
	[R] [Enter]	工場出荷時にデフォルト値をSW-KVM8UPにリストアします。 (アドミニストレーター限定機能)(P.22「RESTORE DEFAULT VALUE」参照)
	[ポートナンバー] [Enter]	指定したポートIDのポートに切替えます。
	[T]	OSDホットキーを[Ctrl]キー2度押し、または[Scroll Lock]キー2度押しに変更します。
	[←]	スキップモードを起動し、1つ前のアクセス可能なポートに切替えます。
	[→]	スキップモードを起動し、1つ後ろのアクセス可能なポートに切替えます。

OSD操作

オンスクリーンディスプレイ (OSD) は、マウスやキーボードの操作が可能なメニューで、このメニューを使うことで本製品の諸設定および接続されたパソコンの管理を行うことができます。これらの操作はすべてOSDメインメニューから実行します。

■OSDへのログイン

OSDでは、ログインユーザーのユーザー権限 (アドミニストレーター/ユーザー) に応じたメニューが表示されます。OSDのメイン画面が表示される前に、ログイン画面が表示され、パスワードの入力を求められます。OSDへの初回ログイン時、また、パスワードが設定されていない場合は、[Enter] キーを押してください。この場合、OSDにはアドミニストレーターの権限でログインしますので、パスワード認証を含むすべての機能にアクセスしたり、操作したりすることが可能です。パスワードが設定されている場合は、OSDにログインする際に本製品で有効なユーザーネームとパスワードを入力する必要があります。

■OSDホットキー

選択したポートを表示している際にOSDメニューを起動したい場合は、[Scroll Lock] キーを2回押すことでOSDメニューを呼び出すことができます。

※OSD表示のホットキーはデフォルトの [Scroll Lock] キーから [Ctrl] キーに変更できます (詳細はP.19「OSD HOTKEY」参照)。[Ctrl] キーの2度押しの際は、2回とも同一 [Ctrl] キーを使用するようにしてください (左側を2回、もしくは右側を2回)。

■OSDメイン画面

OSDメニューを起動すると、以下のような画面が表示されます。



※上図は、アドミニストレーターとしてOSDメニューにログインした場合の例です。F4およびF6の各メニューはアドミニストレーターに限定された機能ですので、一般ユーザーとしてログインした場合は、これらのメニューが表示されません。


※OSDメニューにアクセスすると、前回アクセスしたメニューが選択された状態で表示されます。

※ポート一覧には、現在ログインしているユーザーがアクセスできるポートだけが表示されます。(詳細はP.21「SET ACCESSIBLE PORTS」参照)

※ポート一覧が折りたたまれている場合は、操作対象となるポートIDをクリックするか、そのステーションまでハイライトバーを移動させて右カーソルキーを押してツリーを展開させてください。ポート一覧を折りたたむ場合も同様にポートIDをクリックするか、左カーソルキーを押してツリーを操作します。

OSD操作 (続き)

■OSDメイン画面の項目

PN	製品上の全KVMポートのポートIDが表示されます。ハイライトバーを移動し[Enter]キーを押すと、画面がそのポートに接続されたパソコンに切り替わります。
QV	クイックビューポート (P.22「SET QUICK VIEW PORTS」参照)として選択されているパソコンには、この列に矢印が表示されます。
	ポートに接続されたパソコンに電源が入っている場合、この列に太陽マークが表示されます。
Name	ポートに名前がつけられている場合はこの列に表示されます。 (詳細はP.21「EDIT PORT NAMES」参照)

■OSDナビゲーション

- OSD画面を閉じる場合は、OSD画面の右上に位置する×印をクリックするか、[Esc] キーを押してください。
- ログアウトする場合は、メイン画面の上に位置する「F8」をクリックするか、キーボードで[F8]キーを押してください。
- リスト表示を1行ずつ上下へ移動する場合は、三角の印(▲▼)をクリックするか、キーボードの上下のカーソルキーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- リスト表示を1ページずつ上下へ移動する場合は、画面の上下の矢印(↑↓)をクリックするか、キーボードの[Page Up]キーまたは[Page Down]キーを押してください。これにより、メイン画面はスクロールされます。
- ポートを切替える場合は、選択先のポートをダブルクリックするか、ハイライトバーを移動させ[Enter]キーを押してください。
- これらの実行後は、自動的にメニューは1段階上の状態に戻ります。

■OSD機能

KVMスイッチの諸設定および接続されたパソコンの管理を行うOSD機能について説明します。OSDの各機能によって、任意のポートへの直接切替え、指定したポートのみを対象にしたスキャン、指定したリストのみを対象にした表示、クイックビューポートの設定、ポートネームの設定、OSDの設定等ができます。OSDの各機能にアクセスするには以下の手順で操作してください。

- 1.メイン画面の上部にあるファンクションの文字を直接クリックするか、その機能に対応したファンクションキーを押してください。
- 2.サブメニューが表示されますので、目的のサブメニューを選択しダブルクリックするか、キーボードでそのメニューにハイライトバーを移動させ、[Enter]キーを押してください。
- 3.[Esc]キーを押すと、1段階上のメニューに戻ります。

※各機能の説明は次ページ以降をご覧ください。

OSD操作 (続き)

●F1:GOTO

画面のF1をクリックするか、[F1]キーを押すと、GOTOメニューを起動します。このGOTO機能を利用すると、ポートネーム、もしくはポートIDを入力することで、直接ポートを切替えることが可能です。

- ・ポートネームを使用する場合、[1]キーを押した後、ポートネームを入力して[Enter]キーを押してください。
- ・ポートIDを使用する場合、[2]キーを押した後、ポートIDを入力して[Enter]キーを押してください。

※この機能では、ポートネームの一部もしくはポート ID を入力することが可能です。このとき、現在のリスト表示の設定（詳細は下記「F2:LIST」参照）にかかわらず、該当するポートのうち、ユーザーが表示権限を持つもの（P.21「SET ACCESSIBLE PORTS」参照）がすべて画面にリスト表示されます。

選択をしないで OSD 画面メインメニューに戻るには、[Esc] キーを押してください。

●F2:LIST

このメニューでは、OSDメイン画面で表示するポートの範囲を指定できます。サブメニューの設定項目の詳細は下表をご参照ください。

設定	機能
ALL	現在ログインしているユーザー自身がアクセスできるポートをすべてリストアップします。
QUICK VIEW	クイックビューポート(P.22参照)として選択されたポートをリストアップします。
POWERED ON (電源ON)	接続されているパソコンの電源がオンになっているポートをリストアップします。
QUICK VIEW + POWERED ON (QUICK VIEW + 電源ON)	クイックビューポート(P.22参照)として選択され、かつ接続されているパソコンの電源がオンになっているポートをリストアップします。

選択したいポートをOSD画面上でダブルクリックするか、メニューのハイライトバーを移動して[Enter]キーを押してください。アイコンが表示され、現在選択している設定が表示されます。

OSD操作 (続き)

●F3:SET

このメニューでは、アドミニストレーター権限および各ユーザー権限でログインした際の環境設定を行います。それぞれのユーザーの各プロファイルはKVMスイッチ内に保存され、各ユーザーのログイン時に反映されます。設定を変更される場合は以下の手順で作業してください。

- 1.「F3:SET」の項目をダブルクリックするか、ハイライトバーをこの項目へ移動させ、[Enter]キーを押してください。
- 2.次に表示されたサブメニューの変更したい項目をダブルクリックするか、ハイライトバーを移動させて[Enter]キーを押してください。アイコンは、現在選択されている項目を表示しています。設定項目についての説明は下表をご参照ください。

設定	機能
OSD HOTKEY (OSD ホットキー)	OSDメインメニューを呼び出すホットキーを設定します。 [Scroll Lock] [Scroll Lock] または [Ctrl] [Ctrl] [Ctrl]キーの入力は、動作中のパソコンの他のプログラムと競合する可能性があるため、デフォルトでは[Scroll Lock]キー 2度押しに設定されています。
PORT ID DISPLAY POSITION (PORT ID 表示ポジション)	画面上のポートID表示位置を設定します。デフォルトでは画面の左上に表示されますが、任意の位置にポートIDを表示することもできます。 マウス、またはカーソルキー、[Page Up]、[Page Down]、[Home]、[End]、[Num Lock]をオフにしたテンキーの[5]を使ってポートIDの表示位置を決めた後、ダブルクリックするか[Enter]キーを押して位置を確定してください。設定が完了すると、「F3:SET」のサブメニュー画面に戻ります。
PORT ID DISPLAY DURATION (PORT ID表示時間)	ポート切替えが行われた後、画面にポートIDを表示する時間を設定します。 ・3 SECONDS:3秒間 ・ALWAYS OFF:ポートIDを常に非表示 デフォルトでは3秒間に設定されています。
PORT ID DISPLAY MODE (PORT ID表示モード)	ポートID表示方法を選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。 ・PORT NUMBER+PORT NAME:ポートナンバーとポートネーム ・PORT NUMBER:ポート番号のみ ・PORT NAME:ポートネームのみ デフォルトでは、ポートナンバーとポートネーム(PORT NUMBER+PORT NAME)に設定されています。
SCAN DURATION (スキャン間隔)	オートスキャンモード(P.12参照)で、各ポートに接続されたパソコンの画面を表示する時間を設定します。1~255秒までの数値を入力し、[Enter]キーを押してください。 デフォルトでは5秒間に設定されています。0秒で設定するとスキャン機能を無効にします。

OSD操作 (続き)

●F3:SET (続き)

設定	機能
SCAN-SKIP MODE (スキャン/スキップモード)	スキップモードおよびオートスキャンモード(P.12参照)で、アクセスするパソコンを選択します。選択できる設定項目は以下のとおりです。 ・ALL:アクセスできるポートすべて(P.18参照) ・QUICK VIEW:アクセス可能かつクイックビューポートとして設定されたポート(P.18参照)のみ ・POWERED ON(電源ON):アクセス可能かつ接続されているパソコンの電源がオンになっているポートのみ ・QUICK VIEW+POWERED ON(QUICK VIEW+電源ON):アクセス可能でクイックビューポートとして設定され、かつ接続されているパソコンの電源がオンになっているポートのみ デフォルトではALLに設定されています。 ※注意:クイックビューの設定はアドミニストレーターに限定されている機能ですので、これらの項目はアドミニストレーターでログインした場合にのみ表示されます。(P.21・22参照)
SCREEN BLANKER	この機能で設定された時間、コンソールからの入力がない場合、画面はブランクになります。1~30分の時間を入力してから、[Enter]キーを押します。0分で設定するとこの機能を無効にします。デフォルトでは0(無効)に設定されています。
HOTKEY COMMAND MODE (ホットキーモード)	ホットキー操作がパソコンで動作中のプログラムと競合がある場合などに、ホットキーコマンドの使用可能/不可を切り替えます。
HOTKEY (ホットキー)	ホットキーモードを開始するショートカットキー(P.11参照)を選択できます。[Num Lock] + [-]または[Ctrl] + [F12]のいずれかを選択してください。デフォルトでは[Num Lock] + [-]に設定されています。
OSD LANGUAGE (OSD言語)	OSDメニューの表示言語を設定します。選択できる設定項目は以下のとおりです。 ・ENGLISH:英語 ・DEUTSCH:ドイツ語 ・日本語 ・簡中:中国語(簡体字) ・繁中:中国語(繁体字) デフォルトでは日本語に設定されています。

OSD操作 (続き)

●F4:ADM

F4:ADMはアドミニストレーターのみが使用できる機能です。この機能により、アドミニストレーターはOSDの操作全体を設定・管理できます。設定を変更するには、画面で[F4:ADM]をダブルクリックするか、[↑][↓]上下の矢印キーを使ってハイライトバーを設定したい項目まで移動させ、[Enter]キーを押してください。項目を選択すると、F4機能のサブメニューが表示されます。操作したいメニューをダブルクリックするか、ハイライトバーをそこまで移動させた後、[Enter]キーを押してください。選択する前に、アイコンが表示されます。設定方法は下表をご参照ください。

設定	機能
SET USER LOGIN (ユーザーログインの設定)	この機能でアドミニストレーターおよびユーザーの、ユーザーネーム/パスワードを設定します。アドミニストレーター1名およびユーザー4名のユーザーネームおよびパスワードの設定が可能です。 ・ユーザーまたはアドミニストレーターのうち、1つを選択した後、ユーザーネームとパスワードを入力する画面が表示されます。ユーザーネームとパスワードは半角英数字(A~Z, 0~9)、半角記号(* () + : - , ? . /)、半角スペースを使用し、1~16文字で入力してください。 ・ユーザーネームとパスワードを入力しパスワードを確定したら、[Enter]キーを押してください。 ・既に入力されたユーザーネームまたはパスワードを消去する場合は、[Backspace]キーを使用してください。入力が完了したら[Enter]キーを押してください。 ※注意:ユーザーネームおよびパスワードは大文字と小文字を区別しません。 ユーザーネームはOSDでは大文字で表示されます。
SET ACCESSIBLE PORTS (アクセスポートの設定)	アドミニストレーターはこの機能でポート別に各ユーザーのアクセス権限を定義することができます。各ユーザーに対し対象ポートを選び、スペースキーを押して、以下の項目のうち、お使いの環境に適したものを選択してください。 ・F:フルアクセス ・V:モニターのみ ・(スペース):アクセスNG 全てのポートに対しこの作業を繰り返してください。設定が終わったら[Enter]キーを押してください。デフォルトでは、全てのユーザーが全てのポートに対しF(フルアクセス)に設定されています。 ※注意:ブランク設定は、アクセス権が与えられていないことを意味します。 そのポートはメイン画面のユーザーのリストでも表示されません。 アドミニストレーターは常にすべてのポートに対してフルアクセスの権限を持っています。
SET LOGOUT TIMEOUT (タイムアウトの設定)	ここで設定された時間、コンソールからの入力がない場合、そのユーザーはシステムによって自動的にログアウトさせられます。ログアウトした後でコンソールを使用する場合は、再度ログインしなければなりません。 この機能はオペレータがもうパソコンにアクセスする必要がなくなったのにログアウトを忘れた場合、他のオペレータがそのパソコンにアクセスできるようにするものです。タイムアウトの値を設定するには、1~180分までの数値を入力し、[Enter]キーを押してください。0分で設定するとこの機能を使用不可にします。デフォルトは0(無効)に設定されています。
EDIT PORT NAMES (ポートネームの設定)	製品に接続されているパソコンの識別を容易にするために、各ポートには名前をつけることができます。アドミニストレーターはこの機能でポートネームの設定、編集、削除をそれぞれ行うことができます。ポートネームを編集するには以下の手順で作業してください。 1. 編集したいポートをクリックするか、上下のカーソルキー([↑][↓])を使ってハイライトバーを設定したいポートまで移動させ、[Enter]キーを押します。 2. 新しいポートネームを入力するか、以前のポートネームを訂正または削除してください。ポートネームは、半角英数字(a~z, 0~9)、半角記号(* () + : - , ? . /)、および半角スペースを使用し最大12文字で入力してください。なお、大文字、小文字は区別されません。OSDではポートネームはすべて大文字で表示されます。 3. ポートネームの編集を終えたら、[Enter]キーを押してその変更内容を適用してください。変更を途中で止める際には、[Esc]キーを押してください。

OSD操作 (続き)

●F4:ADM (続き)

設定	機能
RESTORE DEFAULT VALUES (RESTORE)	この機能は、ポートネーム一覧、ユーザーネーム、パスワードを除いた、OSDメニューのすべての項目を工場出荷時のデフォルト値に戻します。(P.26参照)
CLEAR THE NAME LIST (ネームリストのクリア)	ポートネームの一覧を消去します。
ACTIVATE BEEPER (ビープ音の設定)	ビープ音の設定を行います。Y(有効)または、N(無効)を選んでください。Yを選ぶと、ポートが変更された時、オートスキャン機能(P.12参照)が有効になっている時、OSDメニューで無効な入力された時にそれぞれビープ音が鳴ります。デフォルトではY(有効)に設定されています。
SET QUICK VIEW PORTS (QUICK VIEW PORTの設定)	クイックビューポートとして表示するポートを選択します。この機能はアドミニストレーターのみが利用できます。 ・クイックビューポートとして、ポートを選択/解除するには、そのポートをダブルクリックするか、上下のカーソルキー([↑][↓])でハイライトバーをそのポートに移動させて、スペースキーを押してください。 ・ポートがクイックビューポートとして選択された場合、メイン画面のリストの「QV」項目に矢印が表示されます。クイックビューポートとして選択されていない場合には、何も表示されません。 ・LISTメニュー(P.18「F2:LIST」参照)でクイックビューオプションのひとつが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがリストに表示されます。 ・オートスキャン(P.12参照)でクイックビューオプションのひとつが選択されている場合、ここで選択されたポートだけがオートスキャンされます。デフォルトではどのポートもクイックビューポートとして選択されていません。
SET OPERATING SYSTEM (OSの設定)	本製品に接続されているパソコンのOSの種類を設定します。デフォルトではWIN(PC互換機)に設定されています。 OSの設定は以下の手順で行ってください。 1.一覧から、OSを設定するポートを選択してください。 2.スペースキーを押すと、選択できる項目(WIN、MAC、OTHER)が切り替わりますので、お使いのパソコンに適したものを選択してください。 3.選択し終わったら[Esc]キーを押して操作を完了してください。手順2で選択された内容がそのポートに反映されます。
SET KEYBOARD LANGUAGE (KEYBOARD言語)	各ポートに接続されたパソコンで使用するキーボードの言語の設定を行います。スペース キーを押して言語の候補を切り替え、該当の言語を選択して[Enter]キーを押してください。以下の言語の選択が可能です。 AUTO:自動 ENGLISH(US):英語(アメリカ) ENGLISH(UK):英語(イギリス) GERMAN(GER.):ドイツ語(ドイツ) GERMAN(SWISS):ドイツ語(スイス) FRENCH:フランス HUNGARIAN:ハンガリー語 ITALIAN:イタリア語 JAPANESE:日本語 KOREAN:韓国語 RUSSIAN:ロシア語 SPANISH:スペイン語 SWEDISH:スウェーデン語 TRADITIONAL CHINESE:中国語(繁体字) デフォルトではAUTO(自動)に設定されています。

OSD操作 (続き)

●F5:SKP

画面のF5の項目をクリックするか、[F5]キーを押すとスキップモードを起動します。この機能によって、現在表示しているポートから、前後の利用可能なパソコンのポートに簡単にスキップすることができます。

・スキップモード切替えが利用できるパソコンの選択は、F3:SETの機能におけるスキャン/スキップモードで行うことができます。(P.20参照)

スキップモードでは以下のキーで操作を行います。

←	現在のポートから、リスト内の1つ前のポートにスキップします。
→	現在のポートから、リスト内の1つ後のポートにスキップします。

※スキップする際は、スキャン/スキップモード(P.20参照)の選択できる前後のパソコンにしかスキップできません。

- ・ポートがスキャン / スキップモードで選択されている場合、選択されたポートのポート ID の前に三角の印(▲▼)が表示されます。
- ・スキップモードが有効な場合、コンソールが正常に機能しませんので、コンソールから操作したい場合は、スキップモードを終了する必要があります。
- ・スキップモードを終了するには、スペースキー、または [Esc] キーを押してください。

●F6:BRC

ブロードキャストモードはアドミニストレーターのみが使用できる機能です。画面のF6の項目をクリックするか、[F6]キーを押すと、ブロードキャストモード(BRC)を起動します。この機能を使用すると、コンソールで入力したコマンドを、本製品上の利用可能なポートに一斉送信することができます。これは、システム全体のシャットダウンやソフトウェアのインストール/アップデート作業など、複数のパソコンで同じ操作を行う必要があるユーザーに特に便利な機能です。

ブロードキャストモードは「F2:LIST」の機能と組み合わせて機能します。LIST機能(P.18参照)を使用することでOSDメイン画面に表示するポートの範囲を設定することができます。コマンドのブロードキャストは、現在OSD上に表示されているポートを対象に行われます。

- ・BRCモードが有効な場合、現在選択中のポートIDの前にスピーカーマークが表示されます。
- ・BRCモードが有効な場合、マウスが正常に機能しませんので、マウスをお使いになる場合はBRCモードを終了する必要があります。
- ・BRCモードを終了するには、OSDメニューをOSD起動用ホットキーで起動し、F6のフィールドをクリックするか、[F6]キーを押してください。

OSD操作 (続き)

●F7:SCAN

画面のF7の項目をクリックするか、[F7]キーを押すと、オートスキャンモードを起動します。この機能を利用すると、手動でポート切替えを行うことなく、稼働中のパソコンを一定の間隔で自動的に切り替えて、監視することができます。

- ・オートスキャン時に表示するパソコンは、スキャンモード設定の「F3:SET」(P.19参照)のメニューで選択します。
- ・各ポートを表示する時間間隔の設定は、「F3:SET」の「SCAN DURATION」(P.19参照)で行います。任意の場所でスキャンを停止したい場合はスペースキーを押してください。
- ・KVMスイッチが、パソコンが接続されていないポート、もしくは電源の入っていないパソコンが接続されているポートを選択すると、モニターには何も表示されず、マウスまたはキーボードの入力に対しても何も反応しません。この場合、「SCAN DURATION」で設定された時間の経過後、オートスキャンは次のポートに切り替わりますので、しばらくお待ちください。
- ・オートスキャンモード中にアクセスされているポートは、画面上のポートIDの前に[S]マークが表示されています。
- ・オートスキャン中、通常のキーボード/マウス操作は無効になります。入力が必要な場合は、スペースキーを押してオートスキャンモードを解除してください。
- ・オートスキャンの実行中に任意のポートで表示を一時停止したい場合は、[P]キーを押す、もしくは左クリックしてください。詳細についてはP.12「オートスキャンモードの起動」をご参照ください。
- ・オートスキャンモードを終了する場合は、スペースキーもしくは[Esc]キーを押してください。

●F8:LOUT









画面のF8の項目をクリックするか、[F8]キーを押すとOSDメニューからログアウトし、コンソール画面は空白になります。これはOSDメインメニューを表示している間に[Esc]キーを押し、OSDを閉じる操作とは異なります。[Esc]キーを押した場合は、ログアウトせずOSDメニューを閉じただけです。OSDホットキーを押せば再度OSDメニューにアクセスできるのに対し、この機能を使うとOSDからログアウトしますので、再度アクセスする場合は、ログインからやり直さなければなりません。

※注意

- ・OSDからログアウト後に再びOSDを表示すると、OSDメインメニュー以外は空白画面が表示されますので、操作を続けたい場合はユーザーネームとパスワードを入力する必要があります。
- ・ログアウト後に再びKVMスイッチへログインしてOSDを表示し、メニューからポートを選択しない状態で[Esc]キーでOSDを閉じると、ポートが選択されていない状態になり、画面にはNull Port無効ポートメッセージが表示されます。このときOSD起動ホットキーによってOSD画面を表示することができます。

Macキーボードエミュレーション

キーマッピングのエミュレーション機能により、PC互換キーボードからMacシステムのキーボードのファンクションキーを使用することができます。詳細は下表をご参照ください。

PC互換キーボード	Macキーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1] ※	
[Ctrl] [2] ※	
[Ctrl] [3] ※	
[Ctrl] [4] ※	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

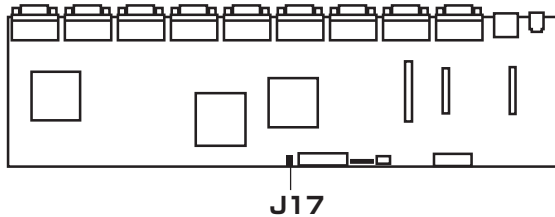
※ [Ctrl] キーを押してすぐに離し、その後フルキー側の数字キー [1] ~ [4] を押して離してください。

■工場出荷時におけるデフォルト値のリストア

本製品の工場出荷時におけるデフォルト値は、後でリストアすることができます。(項目に関しては下記を参照) リストアを行うと、アドミニストレーターおよびユーザーのアカウントはすべてシステムから削除され、ポートネームやその他の項目の設定内容もすべて削除されます。

※この作業にはジャンパキャップが必要ですので、作業を開始する前にご用意ください。

- 1.本製品からACアダプタを抜いてください。
- 2.本製品の外側のケースを外してください。
- 3.マザーボード上にある「J17」ジャンパの1~2のピンにジャンパキャップをかぶせてください。



- 4.本製品にACアダプタを接続してください。電源が入ると、以下のようなメッセージが表示されます。

```

USERNAME AND PASSWORD INFORMATION AND PORT/USER
INFORMATION HAS BEEN CLEARED. PLEASE POWER OFF THE
SWITCH, REMOVE THE JUMPER, CLOSE THE CASE, THEN
RESTART.
    
```

- 5.ACアダプタをもう一度抜いてください。
- 6.「J17」ジャンパの1~2のピンからジャンパキャップを外してください。
- 7.手順2ではずした外側のケースを取付けてください。
- 8.ACアダプタを接続してください。
- 9.この操作で、デフォルトのアドミニストレーターアカウントを使って本製品にログインできるようになります。

■OSDの工場出荷時における初期設定一覧

本製品の工場出荷時における初期設定の内容は以下のとおりです。

設定	初期値
OSDホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ポートID表示位置	左上部
ポートID表示時間	3秒
ポートID表示モード	ポートナンバーおよびポートネーム
スキャン時間	5秒
スキャン/スキップモード	ALL (アクセスできるすべてのポート)
スクリーンブランカー機能	0 (無効)
ログアウトタイムアウト	0 (無効)
ビーブ音	Y (有効)
アクセス可能ポート	F (全ポートに対し、全ユーザーがアクセス可能)

■SPDBコネクタについて

本製品はKVMポート、またはコンソールポートに対してSPDBコネクタを使用しております。コネクタの形状に改良を加えておりますので、専用のKVMケーブルのみ本製品に接続することが可能です。



品番	SW-KVM8UP	
対応パソコン	DOS/Vデスクトップパソコンまたはノートパソコン、Apple Macシリーズ (USB Aコネクタメス、HD(3WAY)15pinディスプレイコネクタを持つ機種)	
対応キーボード	PS/2キーボード、USBキーボード ※1、※2、※3、※4	
対応マウス	PS/2マウス、USBマウス ※1	
対応ディスプレイ	HD(3WAY)15pinメスコネクタを持つマルチスキャンディスプレイ (アナログRGBディスプレイ) ※DDC2B対応	
対応OS	Windows 7・Vista、Windows Server 2003/2008、Windows XP Home Edition/Professional、Windows 2000 Professional/Server/Advanced Server、Windows Me・98SE、Linux (Red Hat8.0/9.0動作確認済み)、 ※カーネルのバージョン・ディストリビューションの仕様により使用できない場合があります。 Mac OS X、Mac OS 9.0以降	
対応解像度	2048×1536ドットまで表示可能	
インターフェース	<パソコン用> オールインワンコネクタ: SPDB18ピン (メス) ×8 ※VGA/キーボード/マウス信号ラインを一体化	<コンソール側> オールインワンコネクタ: SPDB18ピン (オス) ×1 ※VGA/キーボード/マウス信号ラインを一体化
切替方式	本体セレクタスイッチ切替、ホットキー切替、OSD切替、オートスキャンモード切替	
電源	ACアダプタ (DC 5.3V/2.4A)	
消費電力	消費電流: 460mA (最大)、消費電力: 2.44W (最大)	
動作時温度・湿度	0~50℃ 湿度80%以下 (結露なきこと)	
保存時温度・湿度	-20℃~60℃ 湿度80%以下 (結露なきこと)	
サイズ・重量	W433×D160×H44mm・1.89Kg	
付属品	ACアダプタ (5.3V/2.4A) ×1、コンソール接続用ケーブル (0.27m) ×1、ラックマウントキット (ブラケット×2、ネジ×6) 取扱説明書 (保証書付き) ×1、アース線、ゴム足×4、ラック固定用ネジ・ナット・ワッシャー×各4	
推奨ケーブル (品番・品名)	<切替器-ディスプレイ間推奨ケーブル> KC-V07・ディスプレイケーブル (複合同軸・アナログRGB・0.75m) KC-VM07・スリム同軸ディスプレイケーブル (アナログRGB・0.75m)	<切替器-パソコン間専用ケーブル (PS/2接続) > SW-KLP120・パソコン自動切替器用ケーブル (1.2m) SW-KLP180・パソコン自動切替器用ケーブル (1.8m) SW-KLP300・パソコン自動切替器用ケーブル (3.0m) SW-KLP600・パソコン自動切替器用ケーブル (6.0m)
	<切替器-パソコン間専用ケーブル (USB接続) > SW-KLU180・パソコン自動切替器用ケーブル (1.8m) SW-KLU300・パソコン自動切替器用ケーブル (3.0m)	

- ※1: Bluetooth キーボード・Bluetooth マウスには非対応です。
- ※2: キーボードに記載されている USB ハブポートは本製品経由では使用することはできません。
- ※3: キーボードに記載されている特殊ボタンなどドライバを要する機能については本製品経由では使用することができません。
- ※4: 指紋認証機能付キーボード、タッチパッド付キーボードなどは動作しないことがあります。

※注意

- 本製品は AC アダプタの接続が必須です。未接続状態では動作しません。
- NEC PC98-NX シリーズ・PC-9801 シリーズは動作保証外になります。
- 84 キーボードや AT 規格キーボードには対応していません。
- キーボード、マウスにおいてドライバのインストールを要する特殊なボタン、ファンクションキーについては本製品経由では動作しないことがあります。
- フタタッチボタンによるレジューム・サスペンド機能は対応していません。
- 指紋認証機能付キーボード、タッチパッド機能付キーボードには対応していません。
- 本製品は国内仕様となっており、海外での動作保証、サポートは行っていません。
- Microsoft Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

保証規定

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。
製品の販売店は、製品および本ドキュメントの使用に関して、品質・機能・製品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる表示・保証も行いません。
弊社は製品および付属のソフトウェア・ドキュメントについて、予告なしに改良・改訂を行う権利を有します。詳細については販売店までお問い合わせください。

- 1)保証期間内に正常な使用状態でご使用の場合に限り品質を保証しております。万一保証期間内で故障がありました場合は、弊社所定の方法で無償修理いたしますので、保証書を製品に添えてお買い上げの販売店までお持ちください。
- 2)次のような場合は保証期間内でも有償修理になります。
 - ①保証書をご提示いただけない場合。
 - ②所定の項目をご記入いただけない場合、あるいは字句を書き換えられた場合。
 - ③故障の原因が取扱以上の不注意による場合。
- 3)お客様ご自身による改造または修理があったと判断された場合は、保証期間内での修理もお受けいたしかねます。
- 4)本製品の故障、またはその使用によって生じた直接、間接の損害については弊社はその責を負わないものとします。
- 5)本製品を使用中に発生したデータやプログラムの消失、または破損については保証はいたしかねます。
- 6)本製品は医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器などの人命に関わる設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器やシステムなどへの組み込みや使用は意図されておりません。これらの用途に本製品を使用され、人身事故、社会的障害などが生じても弊社はいかなる責任も負いかねます。
- 7)修理・依頼品を郵送、またはご持参される場合の諸費用は、お客様の負担となります。
- 8)保証書は再発行いたしませんので、大切に保管してください。
- 9)保証書は日本国内においてのみ有効です。